

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配 慮 項 目			評価点	重み係数	内 訳						
■1.「地球温暖化対策」の推進											
1.1 建物の熱負荷抑制											
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 断熱性能の高い外周材の選択等により、負荷の低減に配慮している。	3.0	0.15	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	3	外皮性能	
	3.0	0.08									
	4.0	0.85	LR1	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制					
小計	3.8	0.11									
1.2 自然エネルギーの利用											
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 利用していない。	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	自然エネルギー利用	2.1	自然エネルギーの直接利用			
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	自然エネルギー利用	2.2	自然エネルギーの変換利用			
小計	3.0	0.13									
1.3 設備システムの高効率化											
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 空調機器は高効率型を採用している。	4.0	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化					
小計	4.0	0.19									
1.4 設備システムの効率的運用											
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 売場をゾーン毎に分け、空調及び電灯等使用頻度が低い箇所について、エネルギーの消費を抑制するように管理する。	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.1	モニタリング			
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.2	運用管理体制			
小計	3.0	0.13									
1.5 資源・マテリアル対策											
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 再生品を含め、汎用性の高い材料と高性能で効率の良い材料をバランスよく選択する。	4.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水			
	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	1	雨水利用システム導入の有無	
	3.0	0.04	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	2	雑排水再利システム導入の有無	
	2.0	0.06	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減			
	3.0	0.20	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用			
	3.0	0.17	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			
	1.0	0.17	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用			
			LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材			
	4.0	0.20	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み			
	小計	2.9	0.31								
1.6 ライフサイクルCO2排出率											
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 敷地内を積極的に緑化し、環境負荷に配慮している。	4.4	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮					
小計	4.4	0.13									
1.「地球温暖化対策」の推進の評価			3.4	0.70							
■2.「ヒートアイランド対策」の推進											
2.1 温熱環境の向上											
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 西側周辺住宅の居住環境に配慮し、防音壁や緑地を設けている。	1.0	0.50	Q3	室外環境(敷地内)	1	生物環境の保全と創出					
	3.0	0.25	Q3	室外環境(敷地内)	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上			
	1.0	0.25	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善			
小計	1.5	0.96									
2.2 交通負荷抑制											
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 適正量の駐車(駐輪)場を設け、周辺の交通安全に配慮する。	3.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制	
小計	3.0	0.04									
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価			1.6	0.20							
■3.「長寿命化対策」の推進											
3.1 耐用性の向上											
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 内装仕上げ材は、長寿命のものを採用する。また、空調・給排水配管にも耐用年数のながい材料を採用する。	3.0	0.47	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	部品・部材の耐用年数	1	耐震性	
	3.0	0.12	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	部品・部材の耐用年数	2	免進・制振性能	
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数	
	2.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
	3.0	0.03	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	
	5.0	0.06	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	
	2.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔	
小計	2.9	0.70									
3.2 設備の更新性											
(コメント) ※設計の計画上天段に配慮した事項を記載してください。 設備シャフトを適所に設け、将来の設備更新を想定して計画した。	3.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性	
	1.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給水配管の更新性	
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性	
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	通信配線の更新性	
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性	
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペース	
小計	2.7	0.30									
3.「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)			2.9	0.10							
■重点項目の総平均(上記3項目)											
			3.0								